日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）043（222）7207番

96.1.19 No.4329

## 政府・神戸行政の差別政策弾劾！

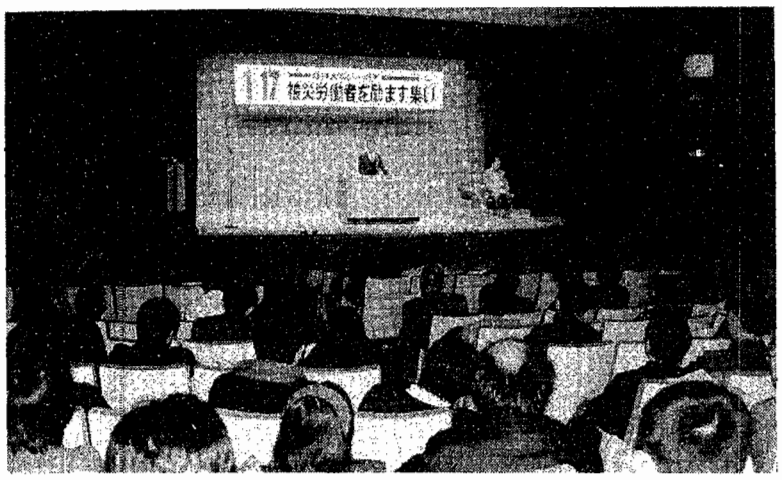
# 被災労働者が怒りの報告

## 『被災労働者を励ます集い』開催（1/17）

## 支援連企員の二倍化を！

一月一七日、一八時三〇分より、東京・南大塚ホールにおいて、「阪神大震災一周年、がんばる被災労働者を励ます集い」が行われ、被災地の一年経った現状や行政による被災労働者の差別的な切り捨てに対する怒りと、被災支援連運動の強化拡大へさらに力を合わせて闘いぬくことが確認された。

集会は、冒頭、被災支援連代表呼掛人の大和田幸治氏（全金港合同田中機械支部委員長）からのメッセージが読み上げられ、次に、連帯と支援のあいさつとが長谷川英憲氏（都政を革新する会）、降旗節雄氏（帝京大学教授）より行われ、とくに降旗氏は「重厚長大企業が神戸から逃げている状況は今の経済構造をあらわしている。労働者が自力で進むべき道を示すことが重要だ」と指摘した。




続いて、問題提起一として、宮島尚史氏（学習院大学法学部教授）より、今の政府・行政のやりかたについて①何もしないで放置する、②ある種の企業救済を行う、③労働者の権利を無視する、という三つの方向性があり、③の方向で神戸を突破しようとしている、と厳しく指摘した上で、資本による春闘破壊に対しても、労働組合が春闘を低く要求すると地域最低賃金にも影響し、それは最終的に生活保護・社会保障にも影響する、一月一七日を社会・労働・政治問題として闘おうと訴えた。

さらに、問題提起二として渡辺好庸氏（社会科学研究所）からは、被災現地での展望の見えない現状は、資本・政府による体制維持のための差別的政策であることなどを明らかにした。

### 『胸をうつ被災現地労働者の訴え』

集会も佳境に入り、いよいよ被災現地から現状を訴えた生々しい報告が行われた。

まず、被災地雇用と生活要求者組合代表・長谷川正夫氏からは「命と生活を守る組合をつくるためにさらに頑張るので、全国の支援を」と訴え、芦原地区住宅要求者組合代表世話人・西中正幸氏は「今も『助けて』という叫び声が耳から離れず眠れない。これまで行政と一五回の交渉を行い、二一五戸の住宅を建てさせ、さらに三五〇戸の建設を約束させた」とこの間の闘いの報告と行政への怒りを明らかにした。また、関西合同労組書記長・宮武章治氏からは、被災地労働者が働きながら権利を獲得する闘いを展開していくことなどが報告された。

### 『被災支援連運動のさらなる強化を』

カンパ要請後、被災地労働者を支援する風間洋子さんからはこの間の支援運動の広がりの中で出会った二人の方が紹介され、その内の一人から長谷川正夫氏に五〇万円の義援金が手渡され、会場からは拍手が沸き起こった。

問題提起三として中島誠氏（文芸評論家）からは、戦前の治安維持法と破防法の関係と、今発動されようとしている組織破防法への危機感が語られ、九六年を全力で闘おう、と訴えられた。

さらに、労働現場からの報告が行われ、動労千葉からは昨年一一・二八からの七二時間ストの報告と被災支援連運動をともに闘う決意を明らかにし、また、長谷川ユキさん（ス労自主）からはこの間の被災支援運動の取り組みなどが紹介された。

最後に、中野委員長（被災支援連代表呼掛人）より、①被災支援連の会員を三月までに五千人に、②一ケ月に一度の宣伝・カンパ活動を行おう、③支援連運動を担うための学習会を行なおうと、三点にわたって当面の課題を提起し、最後に発言者が全員登壇し、団結ガンバロー三唱を行い集会を終了した。

阪神大震災から一年。「復興」というマスコミ報道からは程遠い被災地労働者の現状と、労働者の権利を無視する行政への怒りを訴える被災地労働者に応え、被災支援連運動をさらに強化しよう。

ろうきんで、自分孝行します。
この冬、自分らしい貯め方をはじめます。
ふのやハンク ろうきん
手軽に始める。期間が選べる。
スーパー定期
1年たったら、いつでも使える
ワイド定期（期日指定定期）
使いながら、有利にふやせる。
貯蓄預金
半年ごとに金利が変わる。
変動金利定期預金
給料天引きのラクラク貯蓄。
財形貯蓄 財の預金
ためる かりる ろうきん